

ごみ減量に関する提案書

～今から、ここから、私から～



令和4年2月

徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議

目 次

はじめに	1
1 徳島市のごみの現状及び課題	2
(1) 徳島市のごみの推移	
(2) 令和2年度家庭から出るごみの品目別割合	
2 家庭ごみ減量化施策について	4
(1) 家庭でできる減量策	
ア 生ごみを家庭で処理していこう	
イ 令和版ごみ減量徳島市民大作戦！	
(2) 支出を抑えつつ成果を高める取り組み	
ア SNSを使って発信しよう	
イ 市民意識を変革しよう	
ウ 市民全員でごみ減量イベントに参加しよう	
(3) 将来的に検討すべき取り組み	
ア 徳島市にもっとエコステーションを！	
イ 家庭ごみの有料化について考えよう	
3 徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議 検討経過	14
4 徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議委員名簿	15

はじめに

環境省が公表している自治体の「一般廃棄物の排出及び処理状況など」において、徳島市は全国平均を上回る状況が続いています。また、徳島市のごみ処理には、1年間で約39億円の経費がかかっています。

将来に向けた持続性のある社会を構築していくうえで、ごみの減量は大変重要なテーマであることから、家庭で実行できるごみ減量の取り組みを考えると、この視点で「徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議」が開催されることになりました。

私たちは市民会議の委員として市長から委嘱を受け、ごみの減量に向けた議論をし、限られた期間でありましたが、ここに提案書をまとめました。

未来の子どもたちに、よりよい社会を引き継いでいくため、誰の責任でもなく、自分たちの責任として、「今から、ここから、私から」という理念のもと、私たち一人ひとりがごみの減量を実践し、水都とくしまとして誇れるまちを目指そうではありませんか。

そのためにも、市民、事業者、行政が協力し、本提案内容ができるだけ多く具体化されることを期待します。

令和4年2月

1 徳島市のごみの状況及び課題

(1) 徳島市のごみの推移

徳島市で令和2年度に出されたごみの量は94,815tです。

そのうち、家庭から出たごみは約7割の62,529tとなっており、全体のごみ量から市民1人あたりが1日に出すごみ量を計算すると1,018.2gとなっています。

徳島市一般廃棄物処理基本計画^{※1}では、国の将来推計値（全国平均）を踏まえて、令和13年度まで830gに削減する目標を立てており、中間目標として定める令和3年度目標値996.58gとの差は21.7gとなっています。

しかし、令和元年度の全国の平均値とはまだ100g（Mサイズ卵2個分）の開きがあり、この較差をなくしていくことが目標です。

◇ ごみ収集等の推移

（徳島市一般廃棄物処理基本計画策定以降の状況）

単位：t

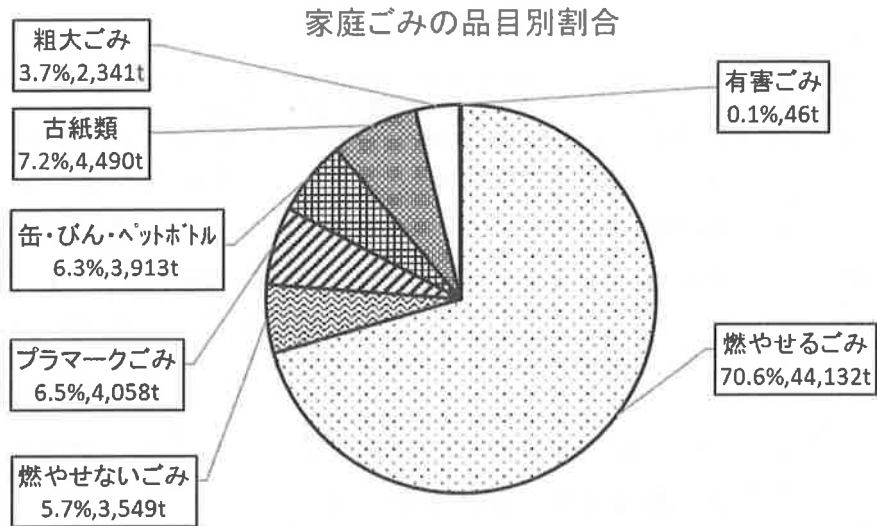
項目		年度				令和元	2
		平成27	28	29	30		
家庭ごみ	燃やせるごみ	45,691	43,919	43,538	42,530	43,490	44,132
	燃やさないごみ	3,494	3,184	3,088	3,226	3,225	3,549
	粗大ごみ	1,752	1,707	1,738	1,916	2,006	2,341
	古紙類	4,729	4,383	4,251	4,324	4,111	4,490
	缶・びん・ペットボトル	3,723	3,602	3,565	3,548	3,627	3,913
	プラスチック製容器包装	3,645	3,490	3,553	3,639	3,705	4,058
	有害ごみ	60	48	54	48	44	46
	小計	63,094	60,333	59,787	59,231	60,208	62,529
事業系・一般持ち込み		35,025	34,728	34,837	34,715	34,205	30,033
資源ごみ回収運動・拠点回収		4,153	3,869	3,739	3,495	3,024	2,253
ごみ排出量 (ごみ総量+資源ごみ回収)		102,272	98,930	98,363	97,441	97,437	94,815
1人1日当たり ごみ排出量(g)		1,083.7	1,049.8	1,046.6	1,040.4	1,045.9	1,018.2

^{※1} 法律に基づいて、市町村がごみの処理を適正に行うために長期的な目標を立て、リサイクル等のごみを減量する政策を定めたものです。現計画は、平成29年6月に策定しています。

(2) 令和2年度家庭から出るごみの品目別割合

徳島市では家庭ごみは8分別で収集されています。

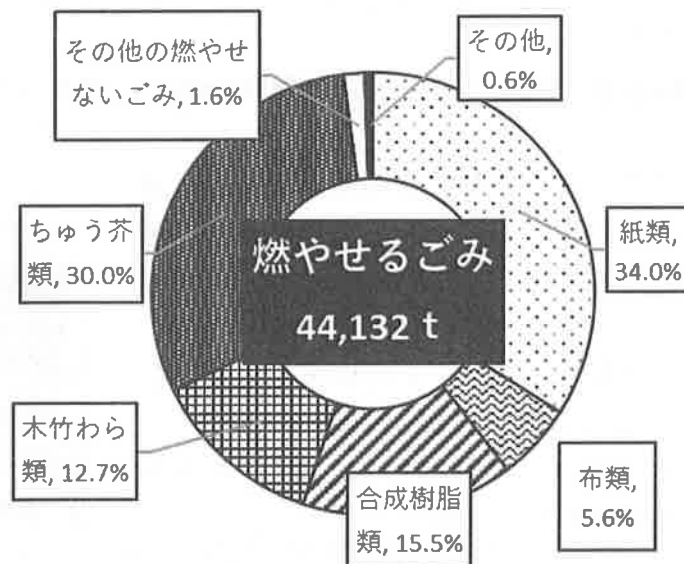
その割合はつぎのとおりとなっていて「燃やせるごみ」が約7割の44,132tと大部分を占めています。



さらに、「燃やせるごみ」のごみ質をみてみますと、「紙類」と「ちゅう介類」（生ごみなど）が約3割ずつ占めています。

そこで私たちは、この紙ごみをリサイクルし、生ごみを減量することができれば、大きなごみの減量につながると考えました。

そして、ごみ減量への意識の高い人に対しては、更にステップアップできる提案を行うとともに、ごみ減量に関心が低い人に対しても、興味を持って取り組んでもらえる提案を行うこととしました。



2 家庭ごみ減量化施策について

(1) 家庭でできるごみ減量策

ア 生ごみを家庭で処理していこう

家庭用生ごみ処理器の普及により、家庭から排出される生ごみの抑制を図る。

主体名	取り組み内容
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用生ごみ処理器について、広報媒体を通じて周知に努め利用促進を図るとともに、補助金などの活用で購入の助成を行い、市民が取り組みやすい環境を整える。 ・市民から報告のあったキエーロなどのごみ削減状況をホームページで公表するなど、広報活動に役立てる。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用生ごみ処理器を利用することにより、家庭から出る生ごみを減量させ、排出抑制に努める。 ・キエーロなどによる生ごみの削減効果を SNS やアプリ等を使って共有し合い、ごみ減量意識を高める。

現在の取り組み状況

- 1 密閉式 (EM) 生ごみ処理容器の無料交付 (令和 2 年度 287 基交付)
- 2 電気式生ごみ処理機の購入補助 (令和 2 年度 72 基補助)。

新たな取り組み

- 1 食品ロスを減らすため、作り過ぎ、買い過ぎを防止し、エコクッキングを実践する。また、使い切れない物はフードバンクや量販店の食品回収ボックスを利用する。
- 2 さらに減量化に向けてキエーロの周知を図り、普及させる。

※ キエーロとは

黒土の力で生ごみを分解する処理器である。黒土の中にいる微生物が生ごみを分解し、正しく使えば虫や臭いは発生しにくいといった特徴が有る。

期待される効果としては、1 世帯がキエーロを設置し、1 日 150g (お茶碗 1 杯程度) の生ごみを減量した場合、徳島市の全世帯で 18, 150kg の減量や処理経費の削減が見込まれる。



イ 令和版ごみ減量徳島市民大作戦！

現在市HPで公開している「ごみ減量徳島市民大作戦」について、新たな項目を追加するなどにより、令和版の市民大作戦としてリニューアルし、家庭でできるさまざまなごみ減量策として周知を図る。

主体名	取り組み内容
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量徳島市民大作戦の実施内容に新たな実践項目を追加するとともに、市民全体での大きな運動となるよう改めて積極的に周知を図る。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量徳島市民大作戦にかかる各項目を日常生活に取り入れ、ごみ減量を実践する。
<p>現在の取り組み状況</p> <p>ごみ減量徳島市民大作戦の実践項目（令和3年1月時点）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生ごみを出すときに台所でキュッと水切りをする 2 リサイクルできる雑がみを雑誌・ダンボール・紙パックの日に出す 3 詰め替え用商品を使う 4 生ごみを減らそう！ 5 いらないレジ袋は断りましょう 6 割りばし・ストロー・スプーンはもらわない！ 7 缶入りよりもリターナブルびんを！ 8 衣類を徹底リサイクル 9 お茶は自家製、ペットボトルを減らそう！ 10 食品用ラップの使用量を減らそう！ 11 まだまだ、もっと、雑がみのリサイクル 12 廃食用油をリサイクルしましょう 13 ティッシュペーパー、ペーパータオルの使用枚数を減らそう！ 14 割りばしは断り、マイはしを使おう！ 15 エコクッキングで生ごみを減らそう！ 16 簡易包装を心掛け、マイバッグを持参しよう！ 17 ダイレクトメールは断ろう！ 18 携帯電話は取扱店に回収してもらおう 19 生ごみ減量化の補助制度を活用しよう！ 20 使用済みインクカートリッジは回収箱に入れよう！ 21 レンタル用品を活用しよう！ 22 乾電池ごみを減らそう！ 	

- 23 計画的な買物をしましょう！
- 24 リユースの精神を忘れずに・・・ごみを減らしましょう
- 25 廃蛍光管の回収箱を利用しましょう！
- 26 再生品を探してみましょう
- 27 期限表示を正しく理解して、食品ロスを減らそう

新たな取り組み

- 1 市民へ公募した「家庭でできるごみ減量アイデア」に寄せられた新たなアイデアの取り入れ
 - (1) キエーロの利用 → 実践項目 4 「生ごみを減らそう！」へ追記する。
 - (2) 古着や不用な布で、新たにクッションや部屋着を作る → 実践項目 28 (新規)
 - (3) リサイクルショップを利用する → 実践項目 29 (新規)
 - (4) 実践項目 30 は、随時募集中とし、市民が各実践項目を日常生活に取り入れるだけでなく、各家庭独自の減量方法を考える場とする。
- 2 市民への周知方法の拡大
 - (1) 広報とくしまで毎月実践項目と具体的な内容を紹介する。
 - (2) 徳島市の公式 SNS で周知する。
 - (3) YouTube を利用し、動画で周知する。

(2) 支出を抑えつつ成果を高める取組み

ア SNS を使って発信しよう

YouTube などの SNS を利用したごみの減量に関する情報を発信し、若者を中心に啓発を図る。

主体名	取組み内容
行政	<ul style="list-style-type: none">・若者が SNS で発信したくなるような仕掛けを作る。・ごみ減量に関する情報発信を行う市民団体に対し支援を行う。
市民	<ul style="list-style-type: none">・行政の制約にとらわれないごみ減量に関する情報を発信する。・SNS を利用してごみ減量に関する情報を拡散し実践する。

現在の取組み状況

市の広報とくしま、Twitter や Facebook の公式アカウントからごみ減量に関する情報を発信しているが、若年層に届いていない。

新たな取組み

学生と協働で SNS を運営し、行政のルールにとらわれない「ごみ減量」につながる動画を情報発信する。

- 1 学生が参画しやすい土壌づくり
 - (1) より学生に訴えかけるような出前教室を行い、運営に興味をもってもらう。
 - (2) 現在、学生とつながりのある市民団体に協力を仰ぎ、仲介役を担ってもらう。
- 2 YouTube や TikTok 用の実写またはアニメーション動画を作成する。
- 3 作成した動画を、Twitter などの市公式ごみ減量アカウントで発信する。
 - (1) 市公式ごみ減量アカウントの開設
 - (2) 開設したアカウントで動画を投稿し、拡散する。また、ごみ減量・再資源化に関する新しい情報も紹介する。
 - (3) 他都市の減量啓発アカウントと相互フォローの関係をつくり、ごみ減量に関する先進事例を紹介する。

イ 市民の意識を変えていこう

市民自らが資源循環型社会の構築や廃棄物の抑制等について考え、行動を起こすことができるよう、意識変革を促すための取り組みを進めることで、全市民が各ライフスタイルの中にリユースやリサイクルを自然に意識できるようにする。

主体名	取り組み内容
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識の変革に向けたさまざまな取組や呼びかけを進める。 ・ごみ減量に関心の低い層へ届くよう、重点的な働きかけを行う。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量の必要性について理解し、具体の行動で減量に努める。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス削減に関する啓発を顧客に対し行う。
<p>現在の取り組み状況</p> <p>ごみの減量について高い意識を持ち、さまざまな行動を実践している市民が多数存在する反面、関心の低い人々も一定割合存在し、従来型の広報では情報が届かない現状がある。</p> <p>新たな取り組み</p> <p>ごみの減量に関心の低い人々の意識が変われば、ごみ減量に大きな効果があることから、知る、体験する、楽しむことのできるようなさまざまな働きかけを進めていくとともに、従来から環境への意識を有する人々にとっても、自身のごみ減量行動による成果がより実感できるような取り組みを進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ごみの減量に向けたより短期での目標を提示する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年後の減量目標、5年後の減量目標などを市民に提示し、それに向けた具体的な取組を示して市民に行動を促す。 <ol style="list-style-type: none"> ア 目標設定例 <ul style="list-style-type: none"> 1年後 1人1日当たり 10g 減 5年後 1人1日当たり 100g 減 (2) 「徳島市民マイナス 100g チャレンジ」等のキャッチフレーズを作成し、具体的な目標を市民に示す。 2 ごみ減量効果の見える化 <ol style="list-style-type: none"> (1) ホームページなどで毎月、ごみ減量の成果を数字で情報提供し、市民の減量の努力を可視化する。 3 分別できていないごみを収集しない。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 分別のできていないごみへのシール張りを徹底し、分別をしなければ収集してもらえないという認識を持ってもらう。 (2) 収集されなかったことへの苦情には丁寧に対応し、市民意識の向上につ 	

なげる。

4 資源ごみを資源物と呼ぶ。

- (1) 市の発行物においては「資源ごみ」という言葉を「資源物」に改める。
- (2) 市民に対してもごみではなく「資源」であることを呼びかける。

5 市の関連施設などで啓発イベントなどを開催

- (1) 市に関連する施設を利用し、ごみ減量の啓発イベントなどを開催する。
- (2) ごみ減量が体験できるような意識啓発についても検討する。

6 量販店などで食品ロス削減に関する広報を行う。

- (1) 量販店などに対し、手前取りや賞味期限、消費期限の周知など、食品ロス削減を市民に広報するように依頼する。

7 リサイクルできる雑がみの周知

- (1) リサイクルできる雑がみについて、量販店など目につきやすいさまざまな場所で周知し、身近なものがリサイクルできることを伝えていく。
- (2) 雑がみ回収袋を学校等で配布するなど、周知を図る。
- (3) 「雑がみ」について、分かりやすく親しみやすいネーミングを検討する。

8 SNSを使った発信（再掲）

- (1) SNS を利用したごみの減量に関する情報を発信し、若者を中心にごみ減量の啓発を図る。



ウ 市民全員参加型のごみ減量イベントの実施

ごみ減量に興味のなかった層にまで浸透するような話題性のある市民全員参加型のイベントを実施する。

主体名	取り組み内容
行政	・多くの市民がごみ減量について考え、行動につながるような参加型のごみ減量イベントなどを他都市の成功事例を参考にしながら検討し、実施を図る。
市民	・減量イベントに参加し、徳島市全体のごみ削減を実践する。
事業所	・減量イベントに市民が関わりやすいよう、職場単位での参加など、可能な範囲での協力を行う。

新たな取り組み

ごみ減量について、市民全体で競争し、より減量に努めた市民に何らかのインセンティブが与えられるようなイベントを実施する。また、イベントを通じて、ごみ減量方法などの普及を図る。

ごみ減量イベントに参加しよう！



(1) 将来的に検討すべき取り組み

ア 徳島市にもっとエコステーションを！

徳島市エコステーションは、いつでも資源物をリサイクルに回すことのできる施設として、利便性の高い施設であり、もっと身近なところがあれば、利用者がさらに増えると考えられる。

このため、市域のバランスのとれた場所への増設を検討する。

- 1 現エコステーションは城東町に設置され、21 品目の資源物の回収を実施している。
- 2 利用者が増加し、現状では手狭となってきた。
- 3 利用者に地域的な偏りが生じており、市民全体としての利便性を確保するには、市域のバランスを考慮した施設配置が望まれる。
- 4 資源売り払い収入よりも維持管理経費が上回っており増設に向けたネックとなっている。

※ 徳島市エコステーションでの回収物及び回収量の推移

* エコステーション回収実績 (単位: kg)

現及び課題

年度 品目	平成29	30	令和元	2
アルミ缶	1,190.7	1,602.0	2,038.0	2,698.0
スチール缶	643.8	935.0	1,143.0	1,299.0
無色びん	3,432.1	4,027.0	4,751.0	5,544.0
茶色びん	2,404.8	2,884.0	3,627.0	4,542.0
その他のびん	1,434.7	1,960.0	2,619.0	3,430.0
ペットボトル	2,743.7	3,751.0	4,545.0	6,019.0
新聞紙	40,635.0	49,504.0	57,029.0	63,547.0
雑誌	69,114.1	86,936.0	104,119.0	120,173.0
段ボール	40,480.8	52,607.0	62,927.0	93,682.0
紙パック	800.2	1,065.0	1,262.0	1,892.0
雑がみ	26,414.6	35,518.0	42,783.0	48,705.0
年度 品目	平成29	30	令和元	2
食品トレイ	194.7	260.0	387.0	528.0
プラスチック	5,747.0	7,705.0	10,095.0	11,467.0
古布	39,474.2	50,097.0	61,766.0	63,117.0
カートリッジ	63.5	101.0	106.0	98.0
乾電池	2,486.5	3,438.0	4,459.0	5,045.0
蛍光管	834.2	1,167.0	1,212.0	1,261.0
食用油	2,817.4	3,029.0	4,092.0	4,787.0
羽毛布団	—	—	239.0	673.0
小型乾電池	—	—	59.0	226.0
携帯電話	—	—	18.0	34.0
合計	240,912.0	306,586.0	369,276.0	438,767.0

<p>解決策及び効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 回収品目について、現施設と同品目を指すのではなく、弾力的な運用により、新規開設を目指す。 2 一般収集よりもリサイクル効果が高まるよう施設運営方法の工夫や利用方法の周知啓発に努める。
<p>解決に向けた手法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 増設にあたっては、空き施設の利用や、民間事業者などとの協働による赤字にならないような運営手法等の経費節減を検討する。 2 エコステーションとは別に、量販店に資源回収の協力を依頼し、誰もが買い物に行った先で資源をリサイクルに回すことのできるリサイクル拠点を増やしていく。 3 エコステーションを利用した際に、回収量に合わせた特典が得られるポイントを付与することで、市民の利用を促進する。



利用できる時間は？

平日 10:00～19:00
 土・日・祝日 10:00～17:00
 (12月29日～31日)

※1月1日～3日はお休みです。
 ※天候等によっては、一時的に受け入れを中止することがあります。

どこにあるの？



イ 家庭ごみの有料化について考えよう

家庭ごみは、現在、無料で収集されているが、全国的に一般廃棄物処理の有料化を実施している自治体も多くあり、徳島県内においても、24自治体中、16自治体が何らかの有料化を実施している。

有料化によるごみ減量効果を見極めたうえで、有料化への対応を検討する。

現状及び課題	<ol style="list-style-type: none">1 現在収集している家庭ごみは、一時多量ごみを除き、すべて無料で収集していることから、分別や減量への意識が働かない。2 有料化する場合は、市民の経済的負担が増すため、ごみ減量効果の見極めや、経済的弱者対策など、慎重な制度設計が求められる。3 市民に負担を求める前に、徹底したごみ減量対策が必要となる。
解決策及び手法	<ol style="list-style-type: none">1 別のごみ減量策についても平行して検討し、実施していく。2 有料化した場合のごみ量の変化などを予測し、実施の適否などについて検討していく。3 有料化した場合の収益は、ごみ処理経費の一部に充当するほか、新たなごみ減量施策拡充のための財源として活用し、更なるごみ減量につなげていく。

3 徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議 検討経過

回数	開催日	検討内容など
第1回	令和3年10月7日	出席人数：10人（Web会議） 1 委員紹介 2 市民会議について 3 徳島市のごみの現状や現在の取り組みについて 4 他都市の事例について 5 ごみ減量の施策の協議について
第2回	令和3年11月19日	出席人数：9人 1 委員、市民からのごみ減量策をもとに、新たな取り組みについての協議及び徳島市への提案書の素案の作成 (1) 家庭でできるごみ減量策 (2) 支出を抑えつつ成果を高める取り組み (3) 将来的に検討すべき取り組み
第3回	令和4年1月13日	出席人数：10人（公開） 傍聴：4人 1 徳島市への提案書（素案）内容のブラッシュアップ及び提案書を完成
	令和4年2月	提案書の提出

4 徳島市ごみ減量・再資源化推進市民会議委員名簿

	職 務	役 職 名	氏 名
1	会 長	四国大学短期大学部 教授	加 渡 いづみ
2	副会長	徳島県危機管理環境部 グリーン社会推進課 課長補佐	山 下 健 一
3	委 員	徳島市消費者協会 会長	中 畑 英美子
4	〃	特定非営利活動法人 フードバンクとくしま 理事長	清 田 麻利子
5	〃	徳島県生活学校連絡会 会長	山 橋 潔 子
6	〃	NPO法人グリーンバード 徳島支部長	岸 田 侑
7	〃	キョーエイグループ (株)寶積運輸 部長	佐 藤 浩
8	〃	公募市民	木 下 麻 衣
9	〃	公募市民	中 島 善 子
10	〃	公募市民	西 山 佳 余

